

研究を知る × 人を知る

# NIED Interview

防災科研で働く研究者をご紹介します。  
研究のことから趣味にいたるまでお聞きしました。



## — 防災科研に来たきっかけは？

大学生のころから防災科研で働きたいと思っていて、2011年に博士課程を出てすぐに、防災科研に来ました。途中、2回の産休・育休を取って今年で12年目です。

理学部の学生だった時、京大防災研の先生たちから日本は災害が多く、防災研究では世界的に最先端の研究ができると聞かされていたことと、台風や地震など災害があると京大防災研の先生たちが災害現場に行ってしまう姿をみてカッコいいと思ったのも大きいです。

## — なぜ地震の研究を選んだのですか？

本当は気象学をやりたいだったので。気象学の実習で、自然現象をコンピューター上で再現できることがすごく面白いと思ったので、気象学研究室に行きたかったのに、あみだくじで落選。その時、地震動の先生が声をかけてくれました。台風と現象は違うけれど、コンピューターで再現するの

が地震の揺れに代わるだけだし、観測と計算を両方使うのは同じ、やりがいがありそうと思って、現在に至ります。

博士課程に進むかは迷いましたが、防災科研に京大OBがたくさんいることを知り、防災科研に行けるなら博士に行こうと決意しました。

## — 子育ては、研究に良い影響がありますか？

子供がいることでいつも時間が足りませんが、効率第一が徹底できるようになったのが一番大きいです。最近、テレワークが導入され、自宅でもできることも増えました。そのことが、心の余裕につながっています。職場でなくてもできることがあるという安心感がありますね。

職場でないとできないことと、自宅でもできることをうまく組み合わせることで、子供との時間も研究時間も確保しています。

## — 今後やりたいことはなんですか？

他部門の研究者と一緒にもっと研究

したいです。防災科研には工学・理学・社会科学とさまざまな分野の研究者がありますが、最近、部門の垣根を越えて、シミュレーションという共通項での交流が始まって、そこから新鮮な刺激を受けています。異分野の研究者と対等に議論できるよう、自分の専門性をもっと高めようというモチベーションにもなっていますね。

地震が来た時に地面がどう揺れるかを再現するのが私の研究ですが、それを受けて建物がどう揺れるのかをシミュレーションするのが、建築を中心とする工学の研究者です。防災科研で言えば、地震減災実験研究部門の人たち。実は身近なところにユーザーがいるんです。私の研究成果が活用されているのはうれしいですし、ユーザーの生の声を聞くことで次の研究のヒントにもなっています。

部門間連携を、今後の新しい研究へのチャレンジにつなげていきたいです。



岩城さんって  
こんな人

マルチハザードリスク評価研究部門 主任研究員

## 岩城 麻子 いわき あさこ

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻博士後期課程修了。専門は固体地球物理学・地震工学。防災科研に入りたくて博士課程に進学。行ける!と思ったらチャレンジしてみる楽天的な一面も。趣味は登山だが最近筑波山にしか行けていない。